

今日のキーワード 円安の影響を懸念する「街角景気」(日本)

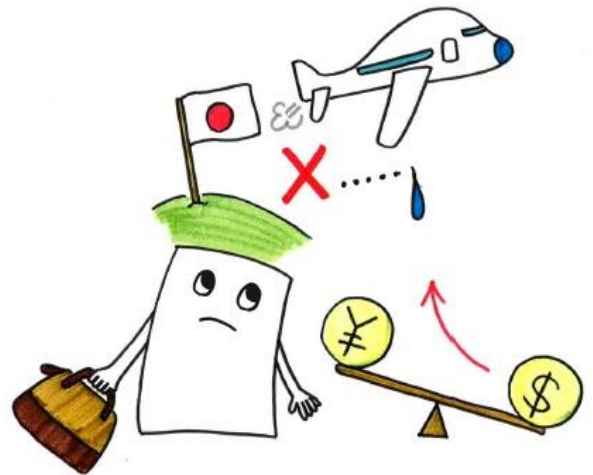
「景気ウォッチャー調査」は内閣府が毎月実施する景況感に関する調査で「街角景気」調査とも呼ばれます。タクシー運転手やコンビニエンスストアの店長、レストラン経営者など、景気に敏感な約2,000人が調査対象(ウォッチャー)です。3カ月前と比べたその時点の景気と、2~3カ月先の景気予測を調査します。算出された指数から好不況を判断する際の中立水準は、50ポイントです。

ポイント1 円安などの影響を受け現状判断DIが低下 家計動向、企業動向、雇用ともに低下

- 11月の「景気ウォッチャー調査」(調査期間11月25日~30日)は、「現状判断DI」が前月比▲2.5ポイントの41.5ポイントと、4カ月連続で中立の50ポイントを下回りました。小売関連の不振から家計動向が同▲2.8ポイントと大きく低下し、企業動向(同▲1.6ポイント)と雇用(同▲2.4ポイント)も低下しました。
- 街角の声には、「海外旅行の予約受付が非常に悪い。円安による割高感が強まっているようである(近畿の旅行代理店)」など、円安の影響を訴える声が聞かれました。

ポイント2 先行き判断DIは3カ月連続で中立以下 円安を懸念、増税延期には期待の声も

- 2~3カ月先の見通しを示す「先行き判断DI」は前月比▲2.6ポイントの44.0ポイントと6カ月連続で低下し、3カ月連続で中立の50ポイントを下回りました。家計動向、企業動向、雇用ともに低下しました。
- 街角の声には、「円安、ドル高による物価の値上がりなどで、人々の財布のひもはまだ固く、必要なもの以外の購入は控える傾向にある(北陸の商店街)」、「円安の影響による原材料費の高騰に耐えられない(東北の食料品製造業)」と円安を懸念する声が聞かれる一方、「消費税の再増税が見送られ、客が少し落ち着いて、年末に買物することを期待している(九州の商店街)」など増税延期に期待する声も聞かれました。



今後の展開 円安の悪影響は、増税延期や、企業業績拡大による賃金増加で緩和へ

■増税延期などによる消費マインド好転に期待

日銀の予想外の量的・質的金融緩和策の拡充、安倍首相の消費税増税延期の表明などにより、円安・株高が進みました。街角の声にもあるように、円安のマイナス面への懸念が強まっている一方、増税延期や株高により消費マインドの好転が期待され、円安によるマイナスを和らげることが期待されます。

■円安は企業業績の上振れ要因

円安は、輸出企業の業績改善などにより、全体としてはプラスと見られます。企業が想定する今年度下期の米ドル円レートは105円程度と見られ、現在の水準が続けば円安による企業業績の上振れ要因となります。企業業績の拡大などにより賃金が増加し、円安の悪影響への懸念が和らぎ、消費回復につながることを期待されます。

ここも チェック!

2014年12月05日 米ドル円レートは120円台、株高傾向も進展
2014年12月02日 好調さを示す「法人企業統計」(日本)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。